

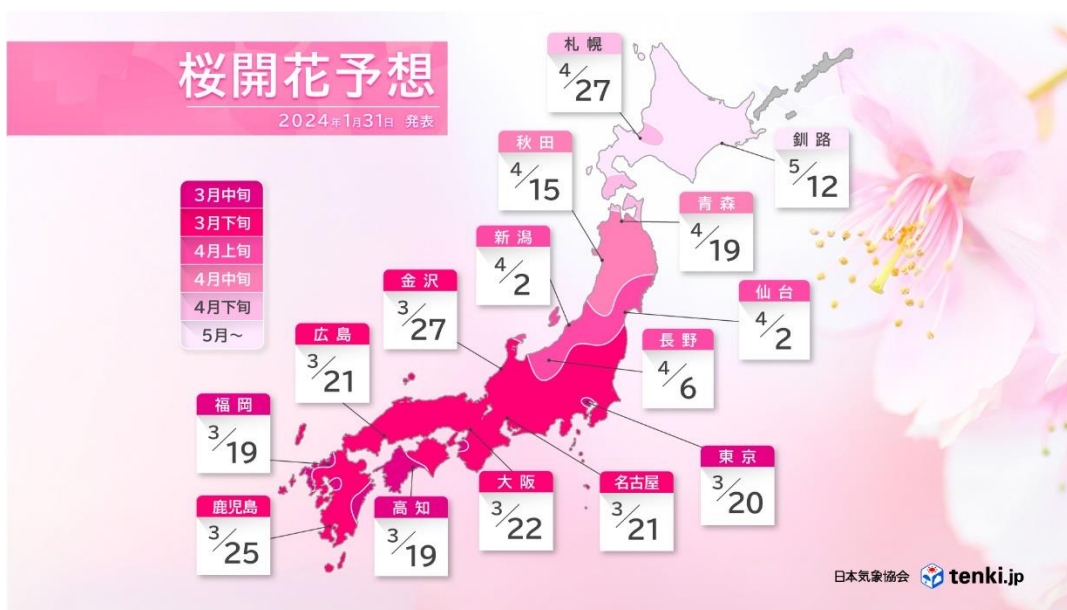
【報道関係各位】

2024年1月31日  
一般財団法人 日本気象協会

## 2024年桜開花予想（第1回） 全国的に平年より早い 開花トップは福岡・高知で3月19日

一般財団法人 日本気象協会（本社：東京都豊島区、理事長：渡邊 一洋、以下「日本気象協会」）は、日本全国49地点の桜の開花予想（第1回）を、2024年1月31日（水）に発表します。

### 開花予想前線図



### 開花予想日(主な地点)

地点	開花予想日と傾向(平年比)	平年	昨年
北海道(道東) 釧路市	5/12 早い	5/16	5/1
北海道(道央) 札幌市	4/27 早い	5/1	4/15
青森県 青森市	4/19 早い	4/22	4/7
宮城県 仙台市	4/2 早い	4/8	3/26
秋田県 秋田市	4/15 平年並	4/17	4/4
東京都 千代田区	3/20 早い	3/24	3/14
長野県 長野市	4/6 早い	4/11	3/28
新潟県 新潟市	4/2 早い	4/8	3/27
石川県 金沢市	3/27 かなり早い	4/3	3/23
愛知県 名古屋市	3/21 早い	3/24	3/17
大阪府 大阪市	3/22 早い	3/27	3/19
広島県 広島市	3/21 早い	3/25	3/19
高知県 高知市	3/19 早い	3/22	3/17
福岡県 福岡市	3/19 早い	3/22	3/18
鹿児島県 鹿児島市	3/25 平年並	3/26	3/24

※釧路市はエゾヤマザクラの予想



## 開花の傾向

2024年春の桜の開花は、全国的に平年より早くなるところが多いでしょう。

今年の桜の開花は、3月19日に福岡・高知からスタートする見込みです。20日には熊本や東京などで、21日には広島、名古屋などでも開花し、3月末までに、九州から北陸にかけての広い範囲で開花するでしょう。

4月に入ると、桜前線は東北まで北上し、4月2日には仙台で、19日には青森で開花する見込みです。4月下旬には北海道へ到達し、札幌では27日に開花するでしょう。

この冬(12月～1月)の気温は、全国的に寒気の流れ込みが弱い時期が続き、暖冬の傾向が強かったものの、12月下旬ごろの寒波では、気温が平年を大きく下回る日も続きました。そのため、桜の花芽(はなめ)の休眠打破※には、開花を大きく遅らせるほどの影響はない見込みです。

2月の気温は、全国的に平年より高くなり、3月にかけても、気温は平年並みか平年より高くなるところが多いでしょう。そのため、桜の開花は全国的に平年より早くなるところが多いですが、現時点の予想では、昨年のような記録的な早期開花ラッシュにはならない見込みです。

※休眠打破: 前年の夏に形成され休眠に入った花芽が、冬になり一定期間の低温にさらされて目覚めること

全49地点の桜の開花予想日は、日本気象協会が運営する天気予報専門メディア『[tenki.jp](https://tenki.jp)(てんきじえーぴー)』桜の開花予想ページ(<https://tenki.jp/sakura/expectation/>)にて公開しています。

### 【言葉の説明】

平年: 1991～2020年の平均値

かなり早い	: 平年よりも7日以上早い
早い	: 平年よりも3日から6日早い
平年並	: 平年との差が2日以内
遅い	: 平年よりも3日から6日遅い
かなり遅い	: 平年よりも7日以上遅い

以 上



## 参考資料

### 桜開花予想に関するよくあるご質問

#### Q1:桜開花予想の発表のスケジュールは？

A1:以下の日程を予定しています。1月、2月中は開花予想日のみを発表し、3月以降は開花予想日と満開予想日を発表します。

第1回 1月31日(水)	第2回 2月28日(水)	第3回 3月6日(水)	第4回 3月13日(水)
第5回 3月19日(火)	第6回 3月27日(水)	第7回 4月3日(水)	第8回 4月10日(水)
第9回 4月17日(水)	第10回 4月24日(水)		

#### Q2:開花日・満開日の基準は？

A2:気象庁の観測基準と同じです。開花日は標本木で5~6輪以上の花が咲いた状態となった最初の日、満開日は標本木で80%以上のつぼみが開いた状態となった最初の日です。

#### Q3:予想する地点数は？

A3:1月、2月中は49地点、3月以降は全国で約80地点の予想を発表します。予想地点は、各地気象台が観測する標本木53地点と自治体・公園などの協力機関から観測データを得られる約30地点となります。

#### Q4:日本気象協会の桜開花予想の手法・特徴は？

A4:花芽の生育過程に大きな影響を与える「秋以降の気温経過」に重点を置いた、独自の予測式を用いて開花予想を行っています。各地気象台の標本木や公園などの協力機関による正確な観測データを重視した、気象学的根拠に基づいた予想を出しているのが特徴です。

日本気象協会は2007年から桜の開花予想を実施しており、今年で18年目の取り組みです。

#### Q5:開花予想に使うデータは？

A5:以下データを使用しています。

- ① 前年秋から予想作業日前までの気温観測値
- ② 予想作業日から開花時期までの気温予測値(日本気象協会ポイント予報および長期予報)

桜の開花時期には、前年の秋から春にかけての気温が大きく影響します。桜の花芽は前年の夏に形成され、その後、休眠に入ります。冬になって一定期間の低温にさらされると、花芽は休眠から覚めます(休眠打破)。休眠から覚めた後は、気温の上昇とともに生長し開花しますが、気温が高いほど花芽の生長が早く進み、開花が早まると考えられています。